

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



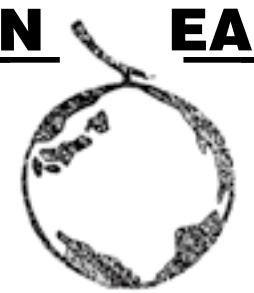
6月の張家口探鳥ツアーでは予想を上回る75種類の野鳥が確認された（写真は蔚県飛狐峪で）。

Contents

- 第25回総会の報告 P 2
- 張家口探鳥ツアー参加者募集 P 2
- 夏季寄付のお願い・東北海岸林再生活動参加者募集 ... P 3
- GEN 総会記念講演要旨 P 4～6

2019.7
188

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第25回総会の報告

6月8日、大阪産業創造館5階研修室A・Bにて緑の地球ネットワーク第25回総会が開催されました。

総会に先立ち、高田直俊さんによる記念講演がおこなわれました（講演要旨はP4～P6に掲載）。

会員373名（団体含む）のうち、会場出席数48名、書面または電磁的方法による決議への参加138名、委任状提出66名、合計252名で総会が成立しました。

【議事】

2018年度事業報告、決算報告・監査報告とその承認、2019年度事業計画と

予算の提案とその承認、定款変更の提案とその承認、役員改選の提案とその承認がおこなわれました。

新役員は以下のとおりです。

【第20期役員】

○代表 前中久行

○副代表 上田信／川島和義／高見邦雄

○事務局長 東川貴子

○会計 川島和義（副代表と兼任）

○世話人 阿部路子／太田房子／大原一晃／岡和希／河本公子／小西美保子／鶴田惇／長坂健司／藤沼潤一／町田良太／松島清／松永光平／宮本

敏幸／向井美香／村松弘一

○監査 稲垣文拓／早草晋

○顧問 石原忠一／小川眞／桜井尚武／藤原國雄／干場革治

なお、鈴木充さん、宮崎いずみさんが世話人を退任し、池場道明さんが監査を退任しました。

【懇親会】

総会終了後、食事とお酒を交えた懇親会をおこないました。36名が参加しました。



参加者募集 張家口 探鳥ツアー

河北省張家口市蔚県では蔚県壺流河国家湿地公園が建設されています。この公園建設の重要な目的が鳥類、なかでも渡り鳥の保護です。乾燥地にある湿地は渡り鳥にとって貴重な生息地です。これまで十分な調査がおこなわれたことがなく、県政府の求めて昨年11月と今年6月に鳥類の調査を実施し、昨年11月には53種、今年6月には予想していたより多い75種の野鳥が確認されました。

そして今年の11月にも調査をおこないます。これまでの調査にご同行いただいた高田直俊先生、大西敏一先生に引き続きご協力いただきます。



蔚県壺流河国家湿地公園のほか大同市広靈県、蔚県南部山地なども調査してまわる予定です。この時期は北から南に移動する渡り鳥の観察が期待できます。みなさまのご参加をお待ちしています。

○日程：11月7日（木）～11日（月）4泊5日

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）

○同行ガイド：高田直俊先生（淀川環境委員会・大阪市立大学名誉教授）大西敏一先生（バードコンサルタント。『日本の野鳥650』平凡社創業100周年記念出版／著者）

○費用：218,000円

※国際航空運賃、空港使用料、国際観光旅客税、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含みます。旅券取得の費用、海外旅行傷害保険、燃油特別付加運賃、個人行動時の費用は含みません。GEN年会費（一般＝12,000円、学生＝3,000円）が別途必要です。

※関西空港発着（中国国際空港利用）、羽田空港発着（日本航空利用）

○定員：14名程度

○最少催行人員：6名

○添乗員：同行しません。GENスタッフ1名が関西空港から同行します。

○参加ご希望の方はGEN事務所まで郵便番号、ご住所、お名前をお知らせください。資料は（株）マイチケットから発送します。

○申込み締切：9月25日（水）



夏季寄付のお願い

GENの活動継続のため、

みなさまのご協力をお願いいたします

冬季寄付にたくさんのご協力をいただき、ありがとうございます。みなさんのあたたかい応援、心より感謝いたします。

河北省張家口市蔚県での緑化事業は3年目となり、徐々にお互いの理解が深まってきました。また、樹木見本園の建設や、鳥類調査など活動内容も豊富になり、活動の幅を広げています。しかし会員の減少は続いており、財政は厳しい状況です。活動を継続させるために、みなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ご送金には同封の郵便振替の用紙をご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。

ません。

銀行振込でご送金いただく場合は電話、メール、ファクスなどでお名前、連絡先、寄付の用途をGEN事務所までお知らせください。

【銀行口座】

三菱UFJ銀行 阪急梅田北支店 普通5284852 緑の地球ネットワーク クレジットカードで年会費・寄付の決済ができます。クレジットでの決済をご希望のかたはGENホームページからお願いいたします（http://gen-tree.org/join_donate/credit.html）。

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

GENは大阪市に認定された認定NPO法人です。（起源は2024年4月

参加者募集

東北海岸林再生活動

津波被災地でわたしたちにできること、東北の今を見に行きませんか

2011年3月11日の東日本大震災、大津波から8年が過ぎました。ゆりりん愛護会はこの津波で壊滅的な被害を受けた海岸林を復活させようとマツを植えて育てる活動を続けています。

GENは2015年からゆりりん愛護会と協力して東北海岸林再生活動をおこ

なっています。毎年植樹祭に参加し、被災の状況とその後の復興を知るために現地を訪問しています。

今年もゆりりん愛護会の復興植樹祭に参加してクロマツの植樹をおこなうほか、除草作業などのお手伝いもさせてもらう予定です。また、「まちかど公共研究所」主宰の工藤寛之さんの案内で被災地を見学し、現地の今のようすをうかがいます。

○日程：9月19日（木）9時30分～10時ごろ JR仙台駅～20日（金）夕方まで

○費用：16,000円程度（ホテル代、レンタカー代含む。昼食、夕食代は含



みません）費用は参加人数によって変動します。

○定員：10名

○内容：ゆりりん愛護会の植樹祭に参加、被災地見学

○申込み：8月23日までにGEN事務所まで

GEN 自然と親しむ会 今後の予定

○前中代表と歩く「野の道」シリーズ ⑪ 木津川沿いを歩く

○日程：10月6日（日）

○場所：京都府相楽郡笠置町周辺

○無煙炭化器を使った炭焼きとバーベキュー

○日時：11月17日（日）

○場所：西宮市武庫川河原（JR福知山線「武田尾」駅付近）

※くわしくは次号でご案内します。

GEN 総会記念講演要旨

蔚県湿地環境の保全提案

高田直俊さん（大阪市立大学名誉教授）

第 25 回総会に先立ち、記念講演をおこないました。今回は大阪市立大学名誉教授の高田直俊さんに蔚県の湿地環境、湿地保全や野鳥の保護についてお話しいただきました。（文責＝編集部）

◆蔚県壺流河の環境



緑の地球ネットワークの従来の協力地、山西省大同市に桑干河があり、官庁ダムへ流れていきますが、その桑干河に下流で合流するのが壺流河で、今日はこの壺流河の話です。天津の標高が約 5 m、北京が 50 m、官庁ダムが 470 m、蔚県は 900 m、大同が 1050 m です。大同市広霊県に水神堂があり、水が湧き出していますが、ここも壺流河の水源です。また蔚県にはもう一つ定安河があり、これも壺流河・桑干河に合流して、官庁ダムに入ります。南水北調の影響もあってか、最近の官庁ダムは満タンです。

さらに細かく見ると、山西省から流れ出た壺流河は河北省へ入りますが、省境付近にダムが二つあります。Google Eearth で壺流河の流れを辿ろうとしても、途中で途切れ、どこが川かわからなくなります。川のあり方が日本と違います。蔚県のかつての中心・蔚州古城の北端の玉皇閣の北を壺流河が流れています。このそばに GEN の樹木見本園、蔚州郷土樹木園があります。このあたりは川の形をしています、ちょっと下るとどこへ行ったかわからなくなります。そもそも水が少なくて、川の姿にならないところがあちこちにある。日本の川と大きく違うところです。

蔚県から北京へ車で向かうとき、定安河を越します。橋の下を定安河が流れていますが、ヒマワリやトウモロコシの畑があって、川の範囲がはっきりしません。昨年 4 月には、このあたりは炭酸カルシウムが地表に白くたまって、霜が降りているようでした。私の好奇心をくすぐったのは、耕して天に至るほど畑を作る人たちが、広い湿地をなぜほったらかし

にしているかということです。春の雪解け水で洪水になるせいかと思っていましたが、それは日本の発想で、ここではそんなに雪は積もらない。炭酸カルシウムで真っ白になっているのをみて、やっとわかりました。ヒツジの放牧で芝生のようになった土地に、カルシウム塩が濃く残るのです。どこへ行ってもヒツジの群れが食べ尽くすから一年生の植物がない、だからタネが落ちない、だからヒバリが来ない、おそらくネズミ、モグラもいない、昆虫がいない。沈黙の春なのでしょう。水の中にヒツジは入りませんので、そこにはいろいろ生えています。カヤツリグサの群落もあるし、オモダカ、ヘラオモダカ、タヌキモ、ガマ、ヨシなどがあります。湿地性の灌木、タマリスクもありましたが、これはヒツジが食わないようです。

河川とはなんぞや。定義をいろいろ調べてみましたがけっこうあいまいで、わかりにくい。私流にいうと「土地争いに負けて自由に流れる領域を狭められ、最後に残された水が流れる線状構造物。たまりかねてときどき反乱（氾濫）をおこす」。日本で大雨が降るとよく洪水になるのは、川が狭いから。そんなところじゃないかと思います。

壺流河にはこの定義が当てはまりません。平時の水の流れは数 m 以下で、その両側はトウモロコシやヒマワリの畑と、ヒツジが放牧される草地です。水の中だけヒツ

ジの放牧がなく、ヨシ、ガマなどの自然植生がある。ヨシ原に依存する野鳥はちゃんといいますが、草地はつつてんで、ヒバリ、ホオジロなどの地上性の鳥はいません。猛禽類はネズミ、モグラなどを食べるチュウヒ、ノスリなどはいませんが、小鳥を襲うハヤブサ、チョウゲンボウはいます。また植生が単純化していますから昆虫類も少ないと思います。山地に森林はなく、あっても若齢植林のため、鳥に多様性が乏しい。しかし先ほどの水神堂は早くから公園化し、大きな木がありますので、小鳥がいました。

◆湿地公園の目的

蔚県では面積 1740ha の蔚県壺流河国家湿地公園が予定されますが、なにがこの公園の売りになるか考えると、やはり非日常的な風景でしょう。水のある環境はみんな好きだし、植物も郷土産のものが珍しがられるし、学術的にも意味があります。野鳥は身近に見られないので希少性があり、気をつけて鳥を見ない人でも、観察会で解説がついたりすると興味を持つ人がでてきます。地域の愛好家を増やすのが非常に大事です。あと生物種の保全です。どこかに 1ha くらいの囲いをして、ヒツジが入らない場所を作って保護するとどうなるか、試験区を作ること提案したいと思います。

水にかかわる自然公園を考えるなら、経時変化を考えた設計・維持が大事だと思います。ときに洪水があつてなにもかも流され、リセットされる。そのような変化が大事ですけど、壺流河は流れがななのでそれが期待できない。集中豪雨で流れがでるようですが、地形を変えるほ

2018年に蔚県で確認した鳥					
キジ科	キジ	クイナ	オオバン	ヒゲガラ	ヒゲガラ
カモ	ヒシクイ	トキ	ヘラサギ	ツバメ	ツバメ
	アカツクシガモ		サギ	チメドリ	カラチメドリ
	オンドリ		カモメ	エナガ	エナガ
	オカヨシガモ			ダルマエナガ	ダルマエナガ
	マガモ	チドリ	ケリ	セッカ	セッカ
	カルガモ	タカ	ハイタカ	ヒタキ	ツグミ
	ハシビロガモ		トビ		バドグロツグミ
	ホシハジロ	カワセミ	カワセミ	スズメ	スズメ
	ホオジロガモ		ヤマセミ	アトリ	アトリ
	ミコアイサ	キツツキ	アカゲラ		カワラヒワ
	カワアイサ		ヤマゲラ		シメ
コウノトリ	ナベコウ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	ホオジロ	シベリアジュリン
カイツブリ	カイツブリ		ワキスジハヤブサ	53種	
	カンムリカイツブリ		チゴハヤブサ		
	ハジロカイツブリ	モズ	オオカラモズ		
ハト	キジバト	カラス	オナガ		
	シラコバト		カササギ		
	カノコバト		ハシブトガラス		
カワラバト	ドバト(カワラバト)	シジュウガラ	シジュウガラ		

どではなさそう。

ここは湿地公園ですので、湿地の草原をどう維持するかが課題です。植栽木は高木化します。実生のポプラやヤナギがたくさん出ていますが、このまま放置して高木林になってもいいのかどうか。そのまま放置して維持できる草地はそうはないのです。乾燥地、水につかる、低温、泥炭地、貧栄養、洪水による攪乱、積雪、火災、食害を常に受けるなど、厳しい環境のところばかりです。壺流河の流域はヤナギやポプラの実生がいっぱいでいるので、放置すると湿潤森林になります。草地を維持するには刈るか燃やすかしありません。

それから放牧の規制で、自然草地の再生にとっていちばん大事です。現地の人の生活との折り合いをどうつけるかという問題です。

自然保護の原則は人間の害をいかに減らすかだと思います。鳥についていえば人間との距離が大事です。野生動物はすべてそうですが、動物と人間とが踏み越えてはいけない距離があります。人間と鳥とが触れ合える公園なんてありえない。

◆中国の鳥

これから鳥の話ですが、図鑑やインターネットで調べると、中国の鳥は 1300 種くらいです。日本の鳥は、2000 年時点の図鑑では 542 種だったのが、2012 年の改訂版では 633 種に増えました。日本の鳥とはなにか。日本で確認された鳥はすべて日本の鳥となっています。普段の生息地から外れた鳥、渡りの経路を外れた鳥、たった 1 回しか記録がなくても、写真が公表されたり、確認の記録が学術誌に記載されれば、日本の鳥になります。

それがなぜ増えたか。大きな理由は観察者が増え、目の数が増えたからです。毎年 1 月 10 日前後に日本全国でガン・カモ調査をしますが、これには 1 万人ほどが参加します。同じように中国でも 10 年後には鳥の数が 1400 ～ 1500 種くらいに増えるかもしれません。

では蔚県のあたりにどれだけの種類の鳥がいるでしょう。図鑑の分布図を見て該当する鳥を抜き出すと、だいたい 280 種くらい。シギ・チドリなどは北から南に渡るのでうちちょっと増えると思いますが、水環境の鳥 83 種、陸と林の鳥 62 種、小鳥類が 132 種です。小鳥類はかなり多

い。前ページ表は去年の 11 月のものですが、全部で 53 種を確認しました。日本でなかなか見られないのは、ナベコウ、ヘラサギ、アカガシラサギ、オオカラモズ、ヒゲガラ、ダルマエナガ、カンムリヒバリ、シベリアジュリンなどです。

広霊県の水神堂の近くに小さなダムがあり、かなり広い湿地公園もあります。自然なかたちの遊歩道がありますが、ちょっと不満なのは路面が高くて、人間が上から鳥を見下げることになる点。鳥は見下げられるのが嫌いです。野生動植物のためには人間の圧力を抑えるのがいちばん大事なことです。

◆水環境を維持するために

日本にも湿地がありますが、大きいのは渡良瀬川の遊水地です。ヨシ原が広くて猛禽類もたくさんいます。あと宮城県北部の蕪栗沼。ここはラムサール条約湿地になっています。あと堤防のない川はウトナイ湖から出ている勇払川があります。これらの場所は多くの野鳥が観察できる貴重なスポットになっています。

水環境を維持するうえで大事なのは物理環境です。国土交通省が猪名川に長さ 30m のワンドを 3 つ作りましたが、2 年で全部なくなった。川の性質をぜんぜんわかってないんですね。淀川にワンドがたくさんあったのは、流れによって埋められるけど、その一方で速い流れが掘ってもいくわけで、動的平衡ですね。

仙台に自然にできた干潟がありました。2011 年の震災、津波で全滅しました。直後に Google Earth で見るとぐちゃぐちゃになっていましたが、しばらくたつと自然に治っていました。自然の川はこうなるようになっていくんです。

また、大阪の南港に大阪湾では唯一まともな干潟があります。これができた 1980 年にはシロチドリやコアジサシが繁殖していたん



ですが、今はヨシが繁って海水に浸かっています。できたときから約 1m も沈下しました。

繰り返になりますが、人間の圧力は自然の生き物に対して非常に問題です。昆虫だったら生活圏が数十 cm 四方のものもあるし、大型動物や猛禽類だと数平方 km が必要です。小さなもの、大きなもの、すごく差があります。ヨシ原のオオヨシキリは 1000 ～ 2000m² で一番が営巣できますが、クマタカ、イヌワシは数平方 km 必要です。ですから、人間が道路をつくると、種類によっては、まったく棲めなくなってしまいます。何かするときには生き物の許容最小面積を考える必要があります。

◆鳥と人の距離

人間と鳥が共存できる方法、狭い場所を譲り合う方法はないかを知りたくて、人間がどこまで近づいたら鳥が逃げるか調べたことがあります。ツグミとオホジロで調べましたが、あいだに背の高い草、ついたてがあるかどうかで大きく違います。ついたてがあるときはうんと近くまで寄れました。まっ平らなところよりも、なにか隠れる場所あるとお互いの身のためになります。

以前は淀川でも猪名川でもホオジロはスズメよりたくさんいたのに、気がつくといなくなっていました。ホオジロは人

蔚県にいる可能性のある鳥					
水環境		陸・林環境		小鳥類	
ガン・ハクチョウ	4	キツツキ	7	モズ	4
カモ	21	カッコウ	5	ムクドリ・オウチョウ	8
カワセミ	3	フクロウ	9	ツグミ	20
ツル	3	ハト	5	ヒタキ	5
クイナ	10	カラス	9	シジュウガラ・ゴジュウガラ	8
シギ・チドリ	19	キジ	2	ツバメ	5
カモメ	5	ワシ・タカ	19	ウグイス	19
カイツブリ・ウ	5	ハヤブサ	6	ヒバリ	6
サギ	9			セキレイ	12
コウノトリ・トキ	4			ヒワ	9
				ホオジロ	15
				アマツバメ	3
				その他の中型鳥	5
				その他の小鳥	13
約 280 種					
・その他 中型: ヨタカ、プッポウソウなど 小型: スズメ、ミソサザイ、ヒゲガラなど					
・渡りで通過する鳥を入れると5割は増えそう。乾燥地域で広い湿地の役割大					

の圧力に敏感なんです。淀川の枚方から下流は運動場なんかがあって人がたくさんいるので、ホオジロはいなくなりました。また、鳥の写真を撮るために大勢で押しかけたり、エサを与えたりする悪質な人が増えるのも困ったことです。西宮市の浜甲子園では4月と5月のシギ・チ

ドリが来る時期は、特別保護区にしてバリケードで立入禁止にしています。このくらいしないと守れないのです。自然環境を考えると、自然をどうするかということと、人間をどうするか両方をやらないといけないのです。6月15日から蔚県に探鳥ツアーに行き

ますけれども、それは鳥を追い出すことになり、気の毒です。私が日本でしてきたことがどこまで中国で当てはまるかわかりませんが、湿地公園建設の責任者である趙志軍さんはたいへん熱心な方です。しっかりとやってくれると思っています。

野鳥の生息地としての湿地保全を 張家口 探鳥ツアー報告

6月15日～19日の日程で張家口探鳥ツアーをおこない、8名が参加しました。今号では参加者の感想を抜粋でご紹介します。

○小西絹子 記
ヨシ原に目を凝らすと、いるいるいる…カルガモ、バン、オオバン、カンムリカイツブリ、オオヨシキリ、セッカ、マガモ、ハシビロガモ…バードコンサルタントの大西さんと高田先生が双眼鏡とカメラを構えて教えてくれる。

延々と広がるトウモロコシ畑に隣接する湿地で、ケリ、ツバメ、カササギの乱舞。なかなかええやん～～♪ バズーカ砲のようなカメラが一斉にパチ

リ、パチリ。これなら撮れる、と思っていたら高田先生が「卵あるで…」草地にさりげなくケリの卵が4つあった。足もとを気にしながら、それぞれソ～と湿地を離れる。ケリの乱舞はただの舞ではなかった。ゴメンゴメン～～

○藤田修二 記
今回初めて官庁ダムのほとりに立って、その満々たる水量に驚きました。一昨年の蔚県へのツアーで遠くからのダムを見ましたが、こんなに水が溜

参加者募集

GEN 関東フランチ 御岳山 自然観察会

東京の奥座敷、御岳山みたけやまでレンゲショウマの群生と森林浴を、GEN 顧問桜井尚武さんの案内で一緒に楽しみませんか。標高 929m の山ですが、ケーブルカー・バスを利用しますので、どなたでもご参加いただけます。

○日程：9月7日（土）9時15分～15時ごろまで ※小雨決行、荒天の場合は中止

○集合：9時15分に青梅線御獄駅

○案内：桜井尚武さん（GEN 顧問）

○スケジュール：御獄駅からケーブルカーの駅までバスで移動。ケーブルカーで御岳山山頂に移動。レンゲショウマ群生地、武蔵御嶽神社、御岳山の植物と樹木の観察と森林浴、山香荘で日帰り入浴、ケーブルカーで下山、15:00 頃解散

※詳細は変更の可能性があります。レンゲショウマ情報はこちら

<http://rengeshoma.guidebook.jp/>
○費用：保険加入料として 500 円を当日お支払い下さい。交通費、現地での買い物、入湯料などは各自ご負担ください。

○持ち物：昼食、飲み物、筆記用具、タオル（入浴用にも）、雨具、虫除け、服装は履きなれた靴（できれば山登り用の靴）、長ズボン長袖シャツ、帽子

○問合せ・参加申込み：9月3日（火）までに GEN 事務所、GEN 関東フランチ ML からお申し込みください。お申し込み後、参加確認のメールを宮下（GEN 会員・自然観察会担当）から差し上げますので、生年月日（保険加入用）、メールアドレス、携帯電話番号（当日の緊急連絡用）をご連絡いただくことになります。

まっているとは。高見副代表の話では、南水北調で長江水系の水が北京へもたらされるようになり、このダムに北京が頼る割合が減ったためだとか。南水北調の長期的な評価を棚上げすれば、「やればできる」。そんな感じでした。

○上田信 記
18日（月）蔚県：曇り8時30分に出発して、隣の大同市靈丘県の水神堂に。水神堂の周囲の公園は、ヒツジの放牧もなく下草が豊かに茂り、鳥も少なくない。アマツバメが宙を舞い、ブッポウソウの声。水神堂を囲む池は、以前よりも拡張されているが、湧水量は減ったとのこと。緑化が進み、地下水量が全体として減少したためとみられる。蓮の花が見事。水神堂内の壁画は以前のまま。拙著『森と緑の中国史』にも掲載した、雨で急ぐ里帰りの新妻の図など。

○高田直俊 記
湿地公園計画に対して GEN は蔚州郷土樹木園を提案し、計画が進んでいる。私はこの広大な乾燥地域にある水環境は渡り鳥の国際中継地点とした広い湿地を売りにした公園がよいと考えた。（中略）とりあえずは鳥の調査を昨年11月と6月に始めた。ヒツジが入らない水域のヨシ原にはそれなりに小鳥類はいるが、ヒツジ放牧の影響は大きいそうで、地上に隠れる草地や種子を落とす草本はないので、地上生の強いヒバリやホオジロの仲間はおらず、またネズミやモグラもいないようで、猛禽類は見ると、地上で狩りをする種類は見えない。

靈丘の南天門自然植物園の自然植生の復元を柴刈りの立入り規制から始めたように、ここもヒツジ放牧を規制して一から草地を復元する試験区をぜひ作りたい。

西伊豆で IVUSA の学生さんと緑化観察、海の幸満喫

あっこ
山田 温子（GEN 会員）
5月10日～12日の日程で、GEN 関東フランチ西伊豆5月合宿をおこない、7名が参加しました。

5月10日～12日、GEN 関東フランチ西伊豆5月合宿には7名が参加しました。私は昨年秋に続いて2回目、今回は友人の小城さんと参加しました。

プレ合宿として、10日夜明け前に釣り大会が始まっていました。釣り師匠の浅野さんが4kg 弱の真鯛を2尾、弟子となる美谷島・中村さんもイサキ、サバ等、大漁でした。夕食は七輪でサバ、イサキを焼き続け食べ続けました。新鮮で美味しかったこと！



森林浴でリラックス、摂津峡散策

板野 敏行（GEN 会員）
5月26日、GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑩ 摂津峡を訪ねるをおこない、11名が参加しました。

これまで何回か自然と親しむ会に参加させていただいております。今回は5月26日に、大阪北摂エリアにある摂津峡に行ってきました。JR 高槻駅からバスで移動し、神峰山口で下車し、周辺の小路を散策しながらスタートしました。

すこし高台に水路が流れており、それに沿って山のすそを歩いていきました。その高台の水路から低い部分にある周辺の田畑を潤すことを教えてもらいました。昔の人は貴重な水が良く行き渡るように考えて水路技術を編み



翌朝 IVUSA の学生さん10数名と車に分乗して芝山の珪石採掘地へ。5年前に植えられたシキミ、アセビの成長の様子を、桜井・藤原・上田さんの説明を受けながら観察しました。午後からは再生休耕田でエビ芋の植え付けとビーナッツ苗の準備。日が暮れて、待望の夕食。学生さんと賑やかに食卓を囲み、真鯛の刺身、藤原先生特製のイノシシ肉の芋煮。

西伊豆の活動に大勢の学生ボランティアが参加して下さったこと、すごいことだと、感銘を受けました。彼らの中から、卒業後も何らかの形で参加し、活動を担う人が出てくるかもと希望が広がる思いがしました。

シキミの苗は5年たってもなかなか成長せず、枯れた物もありで、植生回復までは遠い道のりであることを知ら



されました。しかし、アセビは活着率は低いものの、根付いたものはしっかりと育っています。少しずつ環境変化が感じられました。また20年程前に植えたという上方の斜面には、育った木々が見えていました。そして、今までの経験から、例えば窪地ではなく盛土に種団子をまく等、様々な知見も得られていることが伺え、これらを観察、記録し、積み重ねを絶やさぬことが、長い年月をかけての植生回復につながることを思い、願いました。

一回だけの経験でも貴重なもので、畑、作物について考えるものがありました。特にマルチの行方はいかに？と思案しています。

植樹も畑も藤原先生のご尽力あつてのこと。感謝してご健康をお祈りします。

に参加していた息子が滑り台を見つけて遊ぶのに夢中になってしまったため、私のこの日の散策は終わってしまいました。前中先生ほか参加者のみなさん、すみませんでした。

摂津峡は街中からそう遠くないところで豊かな自然を堪能できるので、夏の緑が映える時期にまた行ってみたいと思います。



総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○「緑水青山就是金山銀山」とか「綠色發展」など生態文明に対する関心が中国で高まっており、日中双方で交流を強化し、互いに学び合い助け合う活動がいつそう大切になっていると思います。よりいつそうのご活躍を期待いたします。（M.T）

○山西省大同市一帯は、かつては、長年、砂漠に近い樹林がほとんど存在しなかった場所（次ページ中段へ）



自然環境市民大学 1 日体験

自然環境市民大学の1日体験です。

- 参加費：300円（資料代・保険料含む）
- 先着若干名。1人2回まで受講可能。
- 問合せ・申込み：公益財団法人
大阪自然環境保全協会市民大学係
（〒530-0041 大阪市北区天神橋
1-9-13 ハイム天神橋202号室 tel .
06-6242-8720 fax . 06-6881-8103
e-mail : shimin@nature.or.jp URL
http://www.nature.or.jp）
- 対象講座：8月7日（水）「ツバメ
の塹入り」京阪観月橋駅／9月4日
（水）「信太山丘陵の保全－湿地環
境と植生」信太山丘陵／9月14日
（土）「野生動物との共存」奈良公
園／10月9日（水）「秋の植物観察
－ドングリを中心に」泉北・光明池
／10月30日（水）「昆虫の分類と
生育環境」高槻市立自然博物館／11
月6日（水）「きのこ・菌類の分類
と役割」近畿大学農学部／11月27
日（水）「淀川の自然環境復元」淀
川左岸橋本～御殿山へ／12月14日
（土）「渡り鳥飛来地の復元」南港
野鳥園／1月15日（土）「里山を知
る－現状と保全の方法」富田林・奥
の谷

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

（7 ページから続く）

に、植樹も困難とされていた場所に、今や高さが10mに迫る森林が成立し風景が一変したとのことですが、地球環境問題の解決策の実例を示され、地域の人々に樹林がほとんど存在しなかった場所にも樹林が再生できるのだという意識を持たれ、森林の再生や拡大に結びついていったのではと思いました。偏西風の影響を受ける日本では、日本の西側にある大陸で人為的に砂漠化した場所が拡大することは、いろいろと影響を受けていたと思われますが、砂漠化した場所に森林を再生することは日本にとっても自然環境や生活環境に対して大きなプラスになると思います。（A.I）

○植樹による地球、人類のための貢献を27年間にも及ぶ年月続けられ、初期のご苦労を乗り越え、また新しい地での課題を抱え込みながらも地域交流が親密になってゆくようすに感心しました。高見さまの努力が実り、私には心に染み深く感動いたします。行動としては協力できませんが声援しております。（T.M）

○NHK World JapanのDVDをお送りくださってありがとうございました。高見さんのインタビューや万人坑の映像を見て多くのことが脳裏によみが

えってきました。時間的余裕の問題でなかなかツアーには参加できないのですが、今後も長く会員としてサポートさせていただきます。（U.T）

○昨年8月の緑化協力ツアーでは龍谷大学生3人がたいへんお世話になりました。また学内の報告会にも来ていただきありがとうございます。学生どうしで「また中国や他の国へ行ってみたい」といった話をしております。就活にメドがついたらまた参加したいです。（M.S）

○NHK World Japanの番組を拝見しました。日本・中国のみならず世界各地にGENのユニークな活動が知られていきますことを願ってやみません。今後ともよろしくお願いいたします。（O.K）

○2019年4月に中国黄土高原スタディツアーに参加させていただき、有意義な時間を過ごさせていただきました。この美しい地球が緑でおおわれ、人間と動物が共存できる優しい地球になることを望みます。（O.T）

○日本をとりまく世界の状況、国内における高齢・少子の問題、どこを向いても問題が山積していますが、このような時代にこつこつと積み上げていくこのネットワークの活動は大切だと感じております。広がっていくことを切に願っております。（K.K）